

# 1950年度

昭和25年度

## 生徒の作詞・作曲による新校歌「朝霧」誕生

### 新校歌誕生

新制高校発足とともに、新しい校歌を望む声が高くなった。固定した校歌ではなく親しみもてる歌を毎年募集しようという考えのもとに、1950年7月、生徒から歌詞を募集した。5作品の中から1年生の赤井文夫による「朝霧」が優秀作品に決定。音楽の中村道之助教諭が曲を手掛け、11月の文化祭で発表した。その後あらためて曲の募集を行い、20曲を超える中から選ばれた3曲をコーラス部が披露、生徒の投票によって2年生の大塚善章(高校4期生)の曲に決定した。

「朝霧」はよく生徒に歌われるようになったため、その後校歌の募集が行われることはなく、これが新制高津高校の校歌となった。

### 初の修学旅行 (東京江ノ島方面)

10月、新制高校となって初めて3年生の修学旅行が行われた。東京、江ノ島方面を巡る3泊4日の日程で行われた。



修学旅行

### 新学区制スタート

新制高校発足当初から、全面的男女共学・教育の機会均等・通学便利の3点に立って、地域制による通学(学区制)が検討されていた。大阪府では、1951年2月より

#### ■1950 (S25) 学校の出来事

- 10月 初の修学旅行(東京、江ノ島方面)
- 10月 バレーボール部・バスケットボール部、国体出場
- 11月 生徒より新校歌募集、「朝霧」に決定

#### ■1950 (S25) 社会の出来事

- 6.25 朝鮮戦争勃発
- 8.10 警察予備隊令公布
- 12.13 地方公務員法公布

学区制度が開始された。大阪市内を6つ、市外を7つ、府内あわせて13の学区に分け、普通科・家庭科・商業科などは必ずその学区内の高等学校に就学するように定められた。本校は、府立夕陽丘高校・市立南高校とともに市内第4学区に属し、通学区は南区と天王寺区に限定された。後に、調整学区として河内市・枚岡市などが加えられた。

## 高校3期

### 高津のころ 中学と高校



昭和26年3月卒

貴田 健

昭和20年3月、米軍機の空襲で家を焼失した人も多く、高津中学への志望者も少なくなつてこの年の入学試験がなくなり全員入学となった。沖縄が戦場となり、欧州ではドイツが降伏し空襲はさらに激しく緊迫の異様な世情であった。やがて終戦。物資は極度に乏しく闇市場の賑わう混乱期ではあつ

たが学校には落ち着きがあり授業は進められていた。敗戦からの復興、民主化に向けて国を挙げての努力が続く。校内の雰囲気には暗さは無く明るく澆刺とした日々だった。

中学3年を終えた時、633制への移行で高津は高等学校となり、我が級は高校1年となる。同時に画期的な男女共学で、お隣の清水谷高女と半数ずつ交流し実現する。校内に整列して清水谷から女生徒を迎えた。運動会のあとのファイヤーストームは賑やかで、男子ばかりの狼歌が大声だった。

アルバイト稼ぎで新聞配達を済ませて登校する者もいた。上六の東にある赤十字病院は米軍に接收されていたがここに潜り込んで物売りをし、米兵とのやりとりで言葉をおぼえ後に役に

#### ◆◆◆ 時の証言者

立ったりする。また先生のおうちに夜な夜な上がり込んで論談となり教えられたことは貴重でなつかしく、「仰げば尊し」を思う。

新学制と共に当時のGHQの指導に沿ってPTAの発足と生徒自治活動がある。自治会設立は最上級のリードでスタートしたが後に高校3年で自分も参画となった。深刻な問題や暗い思いは自由活発だった。

織田作之助、囲碁の高川格ら有名人だけでなく、実業界をはじめ各界で活躍される卒業生は多く、社会に出て仕事に就き内外旅先などで接するうちに高津OBとわかり嬉しい思いでなごやかになったことがある。

学校の隆盛と卒業者の活躍を祈ります。

## 1951年度

昭和26年度

## 優良学校図書館として大阪府教育委員会より表彰

第2回修学旅行  
(九州方面)

5月、第2回修学旅行が九州方面に4泊5日の日程で行われた。3年生8クラスの278名が参加、26日の午後関西汽船の夜行便で出発し、早朝に別府に到着した。別府温泉の地獄巡りや阿蘇登山、熊本城の見学などを行い、夜行列車で30日に帰阪するという強行軍であった。まだ物資不足の時代であったため、旅館には米を持参して宿泊した。

## 優良学校図書館表彰

11月、本校図書館は優良学校図書館として大阪府教育委員会より

表彰を受けた。前年の11月には、大阪CIE図書館長のジュヌヴィエーブ・L・フライデイの視察を受けている。CIE図書館は、連合国軍総司令部(GHQ)の民間情報教育局(CIE)が日本各地に設置した図書館で、大阪CIE図書館は1948年に開設されていた。

## 三澤校長の胸像建立

11月、初代校長の三澤糾の胸像が中庭に建立された。後に同窓会副会長も務めた額田収吉ら第2期の卒業生らの発起によるものであった。三澤校長は「自由と創造」の精神のもと、リベラルな本校の礎を築いた。

## ■1951 (S26) 学校の出来事

- 11月 優良学校図書館として大阪府教育委員会より表彰
- 11月 初代三澤校長の胸像建立
- 11月 校地拡張(北側)

## ■1951 (S26) 社会の出来事

- 5. 1 電力再編成により9電力会社発足
- 6.21 日本、国際労働機関(ILO)・国連教育科学文化機関(ユネスコ)に加盟
- 9. 8 サンフランシスコ講和条約・日米安全保障条約調印



三澤校長の胸像(現在は玄関ロビーに移動)

## 高校 4 期

## 創立 100 周年にあたり (思い出)



昭和 27 年 3 月卒

## 田原脩太郎

昭和20年9月、滋賀県、北五箇荘村の学童集団疎開先から大阪に戻り解散式の後、迎えに来た父の自転車の荷台に乗り3月の空襲で焼け野原の我が家跡を見て布施の仮住居へと戻った。気が付いた状態であった。

昭和21年4月に府立高津中学校に入学、この歳は終戦の翌年、世の中はまだ戦争の厳しさを引きずった殺伐とした気運が感じられた。国鉄城東線鶴橋駅周辺は大きな闇市の一つでいつも黒山の人だかりであった。治安は悪く通常の警察官は50cmほどの警棒一つでは何の抑止力も無かった。MPが陣取りであったようだ。

父が口癖に言っていた「朱に交われば赤くなる」、通学に当たり高津に決めた理由はまさにこれであった。後になって「朱」にも濃淡があること

を知る。定員300人の男子が6組に分かれ教室はぎっしり丸坊主で埋まっていた。これからの勉強には自信が無かった。

必修の「漢文」には驚いた。難しい漢字が詰まった教科書にはぞっとした。担当の熊岡先生はちよび髭を生やし黒い丸ぶち眼鏡、ずんぐり型でいかにも漢学者という風采、独特の節回しでの読唱は今でも耳に残っている。「朋有り、遠方より来たる、また楽しからずや」

校舎と言えばまだ一部焼け落ちた教室もあり廊下にも1トン爆弾のすり鉢状の跡に水が貯まっていた。

朝の通学は満員電車、あちこち窓ガラスが割れたままの状態の車両が日常、殺伐としていた。大人に混じっての通学は恐怖であった。

教科書も一部変則、新聞紙ほどの大きさにB5サイズの何ページ分かが印刷され各人が切り分け糸で綴って使用した。科目によっては担当の先生方独自のガリ版刷りの補助教材が配られた。先生方の御苦労を思う。

入学2年目に学制改革があり旧制中学(5年制)が新制高校(3年制)になった。併設中学3年生の時点で男女共学となり高津は清水谷女学校と交流し同期の約半数が転校した。確か校庭にて成績別といわれた6グループ毎の抽選で二分された。成績の偏りを少なくするための策であったのか。

## ◆◆◆ 時の証言者

校門に在校生が並んで女子生徒を拍手で迎えるというほほえましい風景。だが内心今後の勉強がどうなるのかと気の弱い臆白な私は「気後れ」を感じた。先生方も交流されて華やかなりやであった。(手元にある併設中学校卒業写真によればF組までの総勢306人、内男子は180人を数える。なぜか男子が多い。先生方は前田校長先生以下42名、内、女性7名)

先輩が無く新制高校に通学し高校3年間を終了した。高校生活は、少しは真剣に取り組もうとしたように思う。新しい校歌を創ったピアノ好き、カミュの「異邦人」を読んでいた本の虫もいた。多士済々。先輩、織田作之助の「青春の道説」を回し読んだ記憶も懐かしい。解析1、解析2の数学には閉口した。学年全員が受ける英数理国の実力試験も何回かありその都度成績順に結果が張り出された。各人が唸り込んだのかどうか…。個性豊かな先生方に恵まれ自由奔放に愉快地過ごせた学生生活、多くの良き友にも恵まれ感謝している。今でも高津会として同期生男女25名程が年3回ほど会食している。

高校生活は受験勉強ということもあったがここに来てこれまでの不勉強が身にしみてきた。旺文社の入試科目別「傾向と対策」がたまたまの頼りになる参考書のような気がする。

85にも成りいるんことが走馬燈のように駆けめぐ。断片的な思い出も途切れがちである。

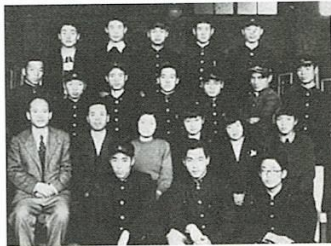
# 1952年度

昭和27年度

## 「Salon de KOZU」初開催

### 高津美術展 「Salon de KOZU」初開催

1952年秋、高津美術展「Salon de KOZU」が初開催された。絵画部は大阪府高等学校美術展覧会で3年連続知事賞を獲得するなど、当時大阪府下では圧倒的な存在を誇っていた。同年の高校美術展は記念祭と日程が重なったため記念祭への出品を断念したが、高校美術展では前年に引き続き府下第1位の好成績をあげた。「Salon de



第1回「Salon de KOZU」メンバー

KOZU」は、その高校美術展と近畿学校美術展に参加して入賞した作品を中心に、絵画部の全容を校内で披露しようと企画された。展覧会場と化した講堂には、在校生ばかりではなく卒業生や保護者など多数が鑑賞に訪れた。反響が大きく、その後は秋の行事として毎年開催されることになった。

### スキー部、 大阪大会で初優勝

1953年1月25日、神鍋山スキー場において大阪大会が行われた。本校スキー部は回転で優勝と2位に輝き、団体では26点を得て、2位を大きく引き離して初優勝した。1月31日には、神鍋山スキー場において近畿大会と西日本大会が行われ、近畿大会滑降で6位、

#### ■1952 (S27) 学校の出来事

- 4月 大阪大学入学者数第2位
- 4月 新入生に自治会則配布開始
- 11.3 高津美術展「Salon de KOZU」初開催(～11.10)

#### ■1953 (S28)

- 1.25 スキー部、大阪大会で初優勝

#### ■1952 (S27) 社会の出来事

- 4.28 GHQ廃止。対日講和・日米安全保障条約発効
- 8.13 日本、国際通貨基金(IMF)・国際復興開発銀行(世界銀行)に加盟
- 8月 日本電信電話公社設立
- 10.15 警察予備隊が保安隊に改組

西日本大会でも9位となった。

### 書道部、学校賞に輝く

1月、天王寺美術館で開催された大阪府高等学校書芸展において、本校からは36名が入選、うち18名が入賞した。総合成績が優秀だったことから学校賞を受けた。

## 高校5期

### 素晴らしい人間教師群に感謝



昭和28年3月卒

額田晃作

野口君の子息が3度目の宇宙へ。私達5期の文化部は、2、3期の華やかなトロフィー奪取を経て女子籠球以外、努力の甲斐なく今一步で甘んじていた運動部に比べ、開花し爆発し他校にない高津文化を生徒間に浸透させ、社会性、芸術性の教養の豊かさをもって高津の特性を更なるものとした。当時の文化部は生徒の自由を尊

重する先生方の心の大きさによって活動出来た。美術部は芸術科教室を部室とし物心共に最高の環境を得た。新聞部も昼夜を問わず議論し記事を書き、野口君の青春の生き様は子息に移植され3度の宇宙行きと考える。

図書部は文学、科学を充実、高津の創造の資料を提供し池田先生はその中心におられた。地歴部は高垣先生のリードで生涯の研究テーマとした人もいる。

空襲の焼け跡の道を辿りついた高津高校に教科、人格に優れた先生が集まっておられたのは戦後の奇跡である。

◆秋山先生(デッサン)まさに高津の舵をとられた、あの頃にToynbeeの文明の危機を英文で教わった。◆渡辺先生(キンチャン)英語の奥深さと発音を教えて下さった。◆加藤先生(ノビさん)人間の生き方を国語によって教わった。◆松田

#### ◆◆◆ 時の証言者

先生(ペロさん)数学はエネルギーを要する学問と知った。◆大角先生(ショットン)アルコール プンプン日本史が沸き出た。◆熊澤先生(パンザン)漢文 天知る地知る校長室横に岩あり。◆富田先生(デカサン)美術教育の権威、油絵床掃除も熱心。◆佐々木先生(チュンサン)生徒の実力を伸ばす達人・全国一の美術校を確立、専門科設立拒否高津は高津の意気。◆前田校長 早朝官舎より出てグラウンドの落ち葉掃き。

若く自由を享受することを当然とした青春、先生との距離の近さは人間形成上頂いたものは大きいと信じる。



高津の誇り 瘦身のソクラテス群像 (昭和26年)